



みなさん、こんにちは。

今日は、業務紹介第2弾として、機械・電気・情報分野のうち海事関係の業務内容を、海事局総務課国際企画調整室岩永課長補佐（入省11年目）より語ってもらいました！



岩永課長補佐（入省11年目）

1. 機械・電気・情報分野のうち海事関係業務の国交省における役割を教えてください。

船舶は世界中どこへでも航行することができ、船舶の安全や環境に関する統一ルールは、ロンドンにある国際海事機関（IMO）での各国代表による議論を経て作成されています。一つの議場に170を超える国と地域の代表が集まり、環境問題など、現在、地球規模で問題となっている課題について議論をするのですが、国交省からも各会議に、数名で構成される代表団を派遣し、我が国としての考え方を主張し、様々な議論をリードしています。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

現在パリ協定により、地球温暖化を産業革命以前に比べて1.5℃に抑える努力を実施しております。環境にやさしい運輸モードである船舶も更なる省エネ化が求められており、IMOにおいても21世紀中のなるべく早期に、国際海運からの温室効果ガスゼロ排出を目指して、現在、議論が進められています。

3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

IMOには安全や環境に係る様々な委員会が設置されています。その中でも重要な委員会の一つの理事会は、2年ごとに、IMO加盟国による選挙で選出される40か国の理事国で構成されています。

理事国になることで、IMOでの議論に、より関与できるのですが、我が国はIMOの設立以来、その地位を確保してきており、昨年11月に実施された選挙でも見事トップで当選することができました。

その過程では、日本にある各IMO加盟国の大使などへ、わが国の海事業界での役割・貢献などを説明することで、投票を呼びかけました。



4. 苦労する点や、やりがいについて教えてください。

海事業界は高度にグローバル化されており、その施策一つ決めるのにも、自国産業への影響以外に、環境影響や他国の主張など様々な要因が影響しあって、一つのアウトプットが生まれます。

我が国の施策自体の成熟度に加え、それを発信する力も求められ、諸外国との関わりもますます必要となってきました。その際に、言語だけでなく考え方、文化の違いなど諸外国の人々とコミュニケーションをとる中で様々な壁があり、それが時には苦労となりますが、それを乗り越えられたときはやりがいを得ることもできます。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

問題に様々な角度からアプローチし、また、その施策を諸外国の人々と議論をするためにも、国土交通省、海事局もまた、多様性のある組織をめざす必要があります、若い柔軟性のある発想もその重要な一部です。

近い将来一緒に働ける日が来ることを楽しみにしています。



国際海事機関（IMO）の議場の様子